長井氏はもともと美濃（現岐阜）の守護代であった斎藤氏の家臣だった。長井氏は斎藤氏の政治的混乱の間に権力を掌握し、1525年の終わりまでに長井氏は彼らを完全に打ち倒し、守護職の土岐頼芸（1502ー1582）と共に亡命させた。長井新左衛門尉は、この政変に参加した長井藩士の一人だった。新左衛門尉は、武士出身ではなく、京都で僧侶として育ち、ごま油商人として成功し、その後長井家に加わった。彼は最終的に長井藩の長となり、稲葉山城を支配した。 彼の息子、斎藤道三（1494年 - 1556年）は、1533年の新左衛門尉の死後、彼を稲葉山城の支配者として引き継いだ。